

第8回 国際政治・外交論文コンテスト

自由民主党 国際局長賞

日本は政府開発援助(ODA)を減らすべきか？

長坂 知穂

私は現在14歳、中学三年生。

「ODAはやめてしまえばいいのに。お金が無たって、財政が厳しいって言って、消費税を5%→10%に上げるって話が出ていたくらいなのに、なんでよその国にお金を使っているのかわからない。」

正直ODAの知識は全く無かった為、ODAについて調べてみた。

日本は戦後の復興に欧米からODAを受けていた事。

ODAは1954年、ビルマを発端としていること。また、大きく分けて

- (1) 二国間援助(国同士で取り決め)
- (2) 多国籍援助(世界食料計画や世界銀行、ユニセフなどに協力する。)

ODAを援助する目的は、

- (1) インフラの整備(日本企業が参入しやすいメリットあり。)
- (2) 憲法により、軍隊を持たない日本の軍事貢献の代替として。
- (3) 国際社会での影響力
- (4) 人道的支援として

以上のようなことを知った。

困った。

「国際貢献」という点ではやめて欲しくない。私はあるNPOに参加していて、その趣旨は「子供が子供を助けよう。」世界中の貧困や戦争や病気に困っている子供に、皆でできることから行動する。

私はその中の「文通プログラム」に参加している。フィリピン・インド・モンゴルのうち文通したい子の国を選んで、年12,000円で4回、日本語訳された文とともに手紙が返ってくるシステムだ。その支払ったお金から、図書館や、文房具、施設などを援助しようとしている。

未使用のテレカや、保存のきく食料を集めたりもしている。

この12,000円もやっとの思いで、お小遣いから掻き集めた。

いくら頑張っても、皆で力を合わせて活動しても、個人やNPOではできることと出来ないことがある。その出来ない所を国際社会が分担して欲しい。だから多国籍ODAを削られるのは困る。

反対に、二国間援助をもう少し、見直してみてもはどうだろうか？

中国や東南アジア、アフリカ諸国では、ニュースを見ていると「日本より、景気がいいんじゃない

いか？」と思うような国もある。それに日本が支援していることを、知らない国も多いときいた。

恩を売るわけじゃないけど、やっぱりがっかりだ。(でも、考えてみたら、戦後の復興にODAが日本に使われていたというのを、日本の全ての人知っているわけではない。少なくとも私は知らなかった。)

それにしてもこのODA、よその国の役にたっているのだろうか??

ODAで作った橋が、落ちたというニュースをだいぶ前に聞いたことがある。

ODAの中にインフラ整備がある。だが、インフラを作って置いてくれば、管理・維持・費用が必要になる。そしてそれには知識も必要だ。

勿論日本もジャイカを通じて、知識や技術を教えている。

前に聞いたジャイカの出前講座で「魚を釣ってあげるのじゃなくて、魚を取る方法を教えた方がいい。」と言っていた。

人は本当に欲しい物を貰った方が嬉しいし、感謝する。インフラは、現地の人たちが心底欲しいものなのだろうか?

国に必要な物ってなんだろう・・・??

私は今年、企業の作文に入賞し、副賞としてドイツに行った。そこで香港から合流した、ジジと言う女の子と友達になった。

頭の回転の速い子で、韓国ほどじゃないけれど勉強が大変!と笑った。私はそんなに賢くないと言っていたが、北京語・英語・ドイツ語・日本語を喋っていた。

ジジとお互い家族や国の違いについて話したが、ジジに

「国にとって一番必要なモノって、何かな？」

と聞いた。

私達がドイツに滞在しているのは、エコロジーについて学ぶ為。当然「環境の為のインフラ整備」とか、「自然」という言葉が出てくるものと思っていたが、ジジは

「人。だから教育。」

とさらりと言った。

「人がいなければ国じゃない。また知識があれば、自分の国をなんとかしようと、問題点に知恵を絞るもの。」

私は黙った。

私は母子家庭で団地に住んでいる。

同じ様に団地には、日系ペルーやブラジル人の人、父子・母子家庭、小さい子供を抱えた若い夫婦、年金暮らしの高齢者と、経済的に力の弱い人達が集まっている。

うちはお母さんが現在失業中で苦しんでいる。自動販売機の前で、友達の中、120円を投入するのをためらってしまう生活が解るだろうか?

高校だって、無償化されたけれど来年学校に行けるかどうか、もう12月なのに決まっていない。

日本はODAを今まで通り出せるだけの、豊かな国なのだろうか?

「しば～。あちょんでー!」と飛び込んでくる近所の子は、40円のお小遣いを貰って、コンビニでおやつに『うまい棒』を買うのを楽しみにしている。

下の階のおじちゃん、おばちゃんと共に年金暮らしだ。でもそのつましい生活の中から、花の種や苗を買ってきて団地に植えて、「綺麗に咲くと嬉しいね。他の人も綺麗だって言ってくれるのも嬉しくてね。」と育ててくれている。

一時期国内で、税金を5%→10%にとニュースになっていた。

税金を納めるのは国民の義務だけど、こんなちっちゃい子から、年金で細々暮らしているお年寄りまで消費税の網を広げるのなら、ODAの中でも不要な部分を削って欲しい。

先日テレビを見ていたら、イギリスの学生が『学費値上げ反対！』と暴れていた。

今まで40万くらいの学費が、120万まで値上げをするのがきっかけだそう。

「そら、暴れるわな。でも、無い袖は振れないね。」

溜息と共に母は言った。でも、イギリスは日本と同じくらい財政が逼迫していて、ありとあらゆる方法でなんとか元に戻そうとしているように見えた。日本と同じ様に事業仕分けもしている。

イギリスは必死なんだと思った。

一般の家庭でもし、破産しそうなのに、隣りの家にお金は貸せない、貢げない。

「こんなに慌てたムードが無いし、ODAもがつつり出しているんだから、日本って、財政が厳しいって言いながら、案外余裕なのかな？」とも思った。

本当は財政が厳しいのに、私のように考える人が増えたらちょっと、怖い。

だからなおのこと、ODAにもメスを入れて《これだけ必死なんだよ！！》と国民に知らしめて欲しいと思う。そして、財政が回復してまた、応援できる余力ができればバックアップしてあげれば良いのではないかな？

「いやいや、国際社会の中で、日本と言う国をアピールする為にも外交上必要なのだよ。」

と仮に主張するのなら、もっと世間一般に学ぶ機会があったり、あとあと揉めない様理解を得る為に、マスコミを通じて周知するのも必要だと思う。こんなにも大きなお金が動いているのだから。

学ぶ機会については、小学校から英語を学ぶカリキュラムが出来た。

これからの国際社会人として英語を学ばせたいのなら、国際社会における外交や貢献についても、合わせて義務教育の中に、しっかり入れてくれたらいいのにと思っている。

私の知識不足は大いにあるだろうけれど、私の周りで日本がODAでどのような貢献をしているのか、話せる中学生は少なかった。

お母さんに聞いてみた。

「もし、私とよその国の子が溺れていたら、で、どちらかしか助けられなかったら、お母さんはどうする??」

母は少し考えながら

「同じ子供。本当は両方とも助けたいよ。でも最終的には我が子を選ぶでしょうね。」

国は予算を決め、振り分ける。でも年度末、余ることなど無いと聞く。お母さんはいかにやり繰りして、余らせることができるか必死だ。

将来お年よりの数だって増えて、今は4人に1人を支えているが、私の大人の頃には2人に1

人を支えるって言われているのに。

真っ当に就職して働こうにも、その働く先が見つけれなくて困っている学生も多い。

働く人が少なければ所得税だって、消費税(お金が無くて消費できない。)だって取れない。

このまま現行のODAを続けて、よその国は豊かになっても、膨らんだ赤字が私達の将来に、否応無く降りかかってくる。

「ねえ、その借金、誰が払うと思っているの……？」

日本の国は、日本の子供を選んでくれるのだろうか……？